

早稲田大学ラグビー蹴球部 95 代主将 上田竜太郎

ラグビーのスクラムの自覚史

Waseda University Rugby Football Club 95th Captain Ryutaro Ueda.

My idea of scrum.

1K09B025

上田竜太郎

指導教員 主査 寒川恒夫 先生

副査 瀬戸邦弘 先生

【目的】

現在の自分の自伝を作ることで客観的な視点から自分を見直す、そして今後の自分の改善点などを以前の経験などから挙げていく。これらを行うことで今後の自分の練習に役立てていくことができる。今後の自分の練習内容を効率的にしていくことが出来れば自身の練習による効果を最大限に得ることが出来ると考えられる。そして私は自身のスクラムに対する精神論から技術までを後輩に伝えていきたい。それは早稲田の諸先輩方やコーチの方々に教えていただいたものも多く、それを是非とも今後の早稲田大学ラグビー部の後輩達に自伝を通じて継承してもらいたいのだ。「効率的な練習の実現」・「スクラムに関する自分の考えの継承」それが本論文を作る目的である。

【方法】

本論の内容は自身の心境の変化が大きかった事柄で分類しその事柄から自分が何をすることができたか。それをまとめることによって本論を構成していく。技術の変化については写真を交えて紹介することによって読み手に効率的にスクラムの自覚史を紹介する。

【結果】

過去の挫折の経験とそれを超えるための技術を、図を交えて説明した。

【考察】

自伝を作成するにあたって、自分が何度も挫折を繰り返してきたことを再確認した。また壁にぶつかりながらも失敗の原因を研究し改善していくことで成長し、トップリーグのチームも押すことができることもわかった。この論文を後輩達が読むことにより、さらなる成長を期待する。

またこの論文を書いて感じたことはやはりプロップにとってラグビー＝スクラムであるということだ。プロップの練習はスクラムにつながる基礎とスクラムであり、ラグビーの試合での仕事はスクラム、練習も試合もスクラムを行う私たちプロップにおいてラグビーの全てはスクラムにあるのだ。スクラムは

8人で組むものであるがスクラムの最前列はプロップである。そのプロップが相手との位置関係で8人の力をうまく使えるか決まるのだ。つまりスクラムの勝敗を決めるのはプロップであるのだ。つまりスクラム＝プロップである。そしてスクラムがラグビーの勝敗を左右するためラグビー＝スクラムとなる。この二つの方程式を掛け合わせると、ラグビー＝プロップとなる。これよりプロップが全てではないが勝敗を決める大きな要因となる。そのため後輩には技術的成長だけでなく、プロップとしての誇りと大きな責任を自覚していくことも期待する。

【結語】

よく、“ラグビーは紳士のスポーツだ” というが、私はこの考え方はとても重要だと感じる。ラグビーでは、“One for All, All for one”、“ノーサイド”といった精神が大事にされており、こういったところがラグビーの素晴らしいところであり、愛される理由だと私は思う。“One for All, All for one”とは一人はみんなのために、みんなは一人のために“という意味で、ラグビーがいかにチームのことを重んじているかを表す言葉でもある。“ノーサイド”とは、“試合が終われば敵味方など関係ない”という意味であり、ラグーマン同士をたたえあうことを重んじていることを表している。こういった考え方が、ラグビー＝紳士のスポーツといわれるゆえんであり、私はこの考え方こそがラグーマンに必要な不可欠である。そのため、私はこういったラグビーの精神を大事にしてかつ実力のあるプレーヤーとなって世界で活躍していきたいのである。

決してあきらめることなく日々鍛錬に励み、立ち上がる目標の数々を達成し、いずれは世界にはばたくプレーヤーとして日本ラグビー界だけでなく世界のラグビー界のトッププレイヤーとして活躍できるように。そのために、努力のできる人間となってラグーマンとしても一人間としても成長することを誓い、これからも一日一日を大切に生きていく。